

# しのぶ草



平成 25 年 10 月 17 日 発行

発行：宮崎市教育委員会文化財課

宮崎市きよたけ歴史館

所在地：宮崎市清武町加納甲 3378-1

TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634

## 〈さわやかな空気の中、第2回「歩こや清武」実施〉

9月4日(水)に計画していました第1回「歩こや清武」は、台風17号の接近による悪天候のため、大変残念ではありましたが、中止とさせていただきます。

さて、10月2日(水)は大変よい天候に恵まれ、第2回「歩こや清武」を実施することができました。宮崎市きよたけ歴史館を発着点として、庵屋方面に約8km歩きました。当日は、午前9時15分に出発し、2時間半弱で帰り着きました。実にさわやかな空気の中を、せせらぎの音を聞きながら清武川の堤防を歩いたり、ひんやりした空気に包まれた杉木立の中を歩いたりしました。



途中、内山禅寺で、仁王像、馬頭観音像、地藏菩薩像などを見ました。また、庵屋地区の百年ほど前の道路改修記念碑、下大久保地区の蚕の神像なども見ました。参加者の

皆様からは、「川端を歩いて、川風がとても気持ちよかったです。」「肌に触れる秋風が大変気持ちよかったです。」「身近な所に歴史を語るものがあるのですね。」などなどの声が聞かれました。コースの中に歴史的なものを入れて、楽しく歩きながら身近にある歴史にふれていただければという企画ですが、参加者の皆様には楽しく有意義な時間を過ごしていただけたのではないかと思います。

この「歩こや清武」は第6回まで計画しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。次回は、11月20日(水)に計画しています。

### ★ 講座等のご案内 ★



#### ◇「宮崎三計塾④」

日時：11月3日(日) 午前10時～正午

#### ◇「きよたけ歴史講座⑦」

日時：11月16日(土) 午前10時～正午  
演題：「幕末の情報戦」 安井息軒研究発表

#### ◇「歩こや 清武③」

日時：11月20日(水) 午前9時～正午  
船引方面に約7km歩く ※雨天時は中止

#### ◇「宮崎の縄文講座④」

日時：11月30日(土) 午前10時～正午

☎ 当日も受け付けています。お気軽にお越しください。

## 〈日向路「介さん」道中記⑧〉

「三日、新町より門川まで一里半、舟渡し有り、湫、尾の末という、右、此の所、有馬仮宿隠居屋敷あり、かど川より鹿草まで一里、鹿草より延岡城下まで二里半…」

8月3日、日向新町を出発した介さん一行は、途中舟で五十鈴川を渡った。この五十鈴川には、地名にまつわる悲しい言い伝えが残っている。「ある時、渡し賃を持たないお坊さんが、仕方なく衣だけを渡してもらい自分は泳いで渡ろうとした。ところが水かさが急に増し、そのお坊さんは溺れてしまうのである。その後、溺死体があがった場所を土地の人たちは“坊主口(淵)”と呼ぶようになった。」(『ふるさとの轍』より)という。

五十鈴川を渡り、現在も門川にその名を残す尾末や加草を経て、彼らは延岡の地へと入った。介さん一行が訪れる2年前の天和二年(1683)、有馬永純の居城であった延岡城では、火災のため本丸三階櫓を焼失している。以後、再建されていないため、介さん達の目に映った延岡城は、やや寂しげな様相であったかもしれない。

「延岡、本は県(あがた)と言う、いま延岡城下舟渡し、川まで使者、箕浦源左衛門、代官、林田九郎兵衛、延岡より曾木まで式里半、千葉子一折、使者、岡田兵左衛門、不受納」



一行が城を眺めながら五ヶ瀬川を舟で渡ると、その北側には今山八幡宮が鎮座している。延岡城から鐘の音を響かせることで有名な“城山の鐘”は、元々、明暦二年(1656)に城主有馬康

純から今山八幡宮に寄進されたものであった。介さん一行が豊後街道に別れを告げ、高千穂往還へと西へ歩を進めたこの時期、“城山の鐘”は今山八幡宮にあったのである。

また、この鐘には「奉寄進 華鯨蓬萊山八幡宮 明暦二年丙申六月吉日 日州延岡城主、有馬左衛門佐、従五位藤原朝臣、康純」という銘が刻まれている。これは「本は県(あがた)」であったこの地方を、“延岡”と記した初見だとも言われている。

延岡から曾木へと向かった介さん一行。その日の宿は北方町曾木にある名刹「弘誓山慈眼禅寺」



である。(つづく)

(文責 井田)